神奈川学園中学校

算数

問題構成は、1が計算問題、2が基本・標準レベルの独立の文章題（答えのみ）、3が対話形式の問題、4・5がそれぞれ大問です。1・2では基礎が身についているか、3では対話形式の文章を読み取り、整理する力を問います。4・5では、(2) と (3) が途中の式や考え方を記述する問題となっているので、日ごろからきちんと式を立てながら考えを整理して解くことを心がけてください。

国語

最初に漢字、語句、ことばの使い方などに関する問題がいくつか続きます。その後に、小説の読解問題､説明文の読解問題がそれぞれ1題ずつあります｡読解問題の文章の長さは、それぞれ文庫本にして見開き 4～5 ページ程度です。漢字は音訓も含め、基本的には小学校 6 年間で習う範囲を超えないように出題します。小説・物語文の読解は、登場人物の心理・心情をつかむことが中心です。説明文は話の筋道をきちんと追い、筆者の言いたいことを正しくつかむことがポイントです。読解問題については書く力も見ます。

理科

理科の基本的知識を問う問題を増やします。実験・観察をもとにした出題をすることは変わりません。問題文を注意深く読み取り、習った知識を使って考えてください。計算問題は、時間を計って過去問を練習するとよいでしょう。記述問題やグラフの読み取り、作成の出題も予定しています。身の回りの理科的な体験やニュースについても、日ごろから関心を持って見ておいてください。

社会

地理分野は､日本の各地方の特色について､それぞれの地方の自然環境（地形や気候など）・農林水産業・工業・貿易・都市などを出題します。歴史分野の範囲は戦後の占領政策の終了までとします。図版・史料からの読み取りや、出来事の並べ替えなどが出題されます。公民・総合分野では、日本国憲法、日本の政治、戦後から現在までの日本と世界などを出題します。ここ数年間に国内外で起きた大きな出来事についても学習しておきましょう。各分野とも地名・人名・用語などは、正しい漢字で書くことを心がけてください。

鎌倉女学院中学校

算数

出題は「計算問題」「穴埋めⅠ」「穴埋めⅡ」「大問Ⅰ」「大問Ⅱ」のパターンで行っています。計算には、分配法則や結合法則を上手に使って工夫して解くものもあります。各分野から偏りなく出題しています。基礎的な内容が多いので、冷静に考え、着実に解いてください。問題文の意味を正確に読み取り、最後に答えが出た後で、何が問われていたのかを確認してから答えを書いてください。また、時間内にすべての問題に目を通せるように、時間配分にも気をつけてください。

国語

出題パターンは、例年どおり漢字の読み書き、国語に関する知識問題、長文2題（物語文と説明文）です。言語感覚・思考力・想像力を試すことを主眼に置いています。前年と同じく文が長く、記述も多くなっています。文章にしっかり向き合う姿勢と集中力の持続が必要です。ただし1次では長い記述は出題せず、それに代わり思考力を問う選択問題を配しました。一の漢字も1次は選択式です。設問文を含め、文章を正しく読み取り、質問されていることに的確に答えましょう。漢字の書き取りは、はね、とめ、字としてのバランスに気をつけて、ていねいに書きましょう。生活のなかで気になることばがあれば意味を調べ、自分のことばの世界を豊かにすることを心がけてください。

理科

さまざまな分野に興味を持ってほしいという思いから、物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点は各分野とも約25点ずつとしています。まずは苦手分野をなくし、どの分野も基本事項をしっかり理解しておきましょう。文章やグラフなどから情報を読み取り、得た情報を図示したり数式にしたりする力も重要です。自分の手を動かして、何度も取り組むことを大切にしてください。設問に「漢字で…」「小数で…」などの指定があるときは、それ以外の解答は不正解とします。中間点はないので注意しましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野からまんべんなく出題します。例年、各分野の大問は1題ずつとしていますが、地理分野の事柄でも、歴史や公民の視点から出題することもあります。さまざまな見方で物事をとらえ、考えられるようにしてください。また、資料をもとにして考える問題も出題するので、日々の学習のなかでグラフや表、地図などを活用しましょう。地名・人名・用語などは漢字で書けるようにしてください。

カリタス女子中学校

算数

1は小問の集まりで、基本的な力を測る問題をいろいろな分野から出題します。たとえば、計算問題、割合、比、規則性を読み取る問題、図形、場合の数などです。2以降では基本的な問題に加えて応用問題も出題します。そのなかには、ただ公式を当てはめて解くのではなく、基本的な知識を用いて、どのようにすれば解決できるかという思考力を必要とするものもあります。解答形式は、1は答えのみを書く問題ですが、2以降には考え方や途中の式などを求める問題もあります。そのような問題では、正解に至らなくても、考え方の方向性が正しく、計算についても途中まで正しい場合は、途中点を与えることがあります。

国語

漢字と説明的文章と文学的文章の3題構成です。文章はそれほど抽象度の高いものではありませんが、速く正確に読み解く練習が必要です。設問は、記号問題や抜き出し問題のほかに、記述問題を必ず出題しています。求められていることを正確にとらえ、解答に必要なポイントを端的にまとめる練習をしてください。記述問題の採点では、内容に応じて部分点をつけています。また、各回とも漢字（読み・書き）の問題は全体の15%程度の割合で、小学校で学習する範囲から出題します。記述問題で、小学校で学習する漢字の誤字・脱字があった場合には減点します。また、ことばの知識なども出すことがあります。

理科

基礎的な事柄が身についているか、自分で考える思考力を持っているかを測るために、基本的な知識を答えるものと、具体的な実験結果や観察内容から、自分で考えて答えを導き出すものとの二つのタイプの問題を出します。十分な知識を身につけるとともに、実験や観察から得られた情報と知識を組み合わせて、科学的に考える習慣をつけてください。ふだんから理科に興味を持ち、自分の知識を使って、身近な生き物や現象について考える練習をしておくとよいでしょう。分野ごとの配点は、物理・化学分野が約60%、生物・地学分野が約40%です。

社会

受験生の皆さんの知識・理解・思考を問うことを目的とした出題となっています。具体的には、①基礎的な知識や理解、②初めて見るデータから傾向や現象を読み取る力、③初めて知る事柄や初見のデータから読み取ったことと、あらかじめ身につけておいた基礎的な知識や理解とを結びつけて考える力、④身につけている基礎的な知識や初めて見るデータに基づいて、自分なりの考えをまとめてわかりやすく記述する力、などを問います。また、⑤新聞やテレビなどで盛んに報道されているニュースについての知識や理解を持ち合わせているか、日本や世界で話題・問題となっている出来事・現象について興味・関心を持

っているか、ということも知りたいと考えています。配点は、地理的分野が約 20 点、歴史的分野が約 20 点、公民的分野が約 10 点の 50 点満点です。本校の過去問をできるだけたくさん解いて、問題に込められたわたしたちの出題の意図を考えてみてください。

湘南白百合学園中学校

算数

4 教科入試では、計算・小問、グラフ、文章題、平面図形、空間図形が出題範囲です。過去問を参考にして弱点を補強しましょう。算数 1 教科入試では、計算・小問（文章題）が 70%で、そのほかに課題文を読み解きながら求める計算問題、データを扱う問題、考え方を表現する問題を各 10%ずつ出題します。本校ホームページ上に 3 年分の過去問題を掲載しているので、参考にしてください。

国語

4 教科入試は、文学的文章問題が約 40%の配点と、説明的文章問題が約 40%の配点です。ことばの問題（漢字の読み書きや、文法的事項など）と、多様な問題合わせて約 20%の配点。相応の字数を求める記述問題では、中間点をとっています。国語 1 教科入試は、ことばの問題と、多様な問題で約 30%の配点、文学的文章問題が約 35%の配点、説明的文章問題が約 35%の配点です。漢字の読み書きは記述式ですが、文章問題は主に選択式で解答することになります。

理科

生物分野が 30%、物理・化学分野が 25%ずつ、地学分野が 20%です。基礎的学力・思考力・観察力が身についているか、科学への好奇心があるかを見るという狙いで出題します。計算問題や短文記述もあるので、練習しておくことが肝心です。

社会

地理は 40%前後、歴史は 40%前後、公民は 20%前後です。各分野の融合問題になる可能性もあります。統計・図表・グラフなどの資（史）料を見て内容を読み取れるようにしておき、写真や地図などにも留意しましょう。また、小学校の教科書に漢字で書かれている用語は、漢字で書けるようにしましょう。

聖セシリア女子中学校

A方式

基礎事項・重要事項を中心に出題します。単に知識の有無を問うだけではなく、思考の過程を重視し、それを点数化できるようなものにします。なお、一次・二次・三次試験とも出題傾向は同じで、問題のレベルも同程度です。

算数

大問は5題程度で、四則演算（逆算、割合、諸単位の計算を含む）、小問（特殊算を含む）、図形（角度・面積・体積など。定規・コンパスは不要）、グラフ、規則性の問題などを出題します。

国語

大問は4題程度で、漢字などの言語事項問題が1題、短文を作る問題が1題、長文読解が2題程度です。漢字は読み・書きともに出題し、短文を作る問題では、ことばを使いこなす力を測ります。長文読解の2題は文学的文章と説明的文章で、解答形式は記述（必ず含む）と選択とがあります。

理科

「生物と環境」分野が約30%、「物質と変化」分野が約30%、「運動とエネルギー」分野が約30%、「地球と宇宙」分野が約10%です。実験・観察から考えるものを出題します。解答形式は選択・記述（説明形式を含む）のほか、作図があります（定規・コンパスは不要）。理科用語については、漢字での解答を原則とします。

社会

大問は2題で、1題が歴史問題（約75%）、もう1題がテーマ問題（約25%）です。歴史問題は原則として6年生の社会の教科書「上」が範囲で、テーマ問題は教科書「下」に関連する最近の国内・国外の時事問題から出題します。歴史分野、テーマ分野ともに、地図・資料を用いた出題があります。歴史用語・社会用語は教科書準拠の漢字解答とします。テーマ問題の説明形式の解答は、自分の「思い」や「考え」をどう表現しているかを採点対象とします。

B方式

【スカラ得意科目入試】

算数

A方式とは構成が異なり、一行問題を中心に約30問を出題します。また、基本的問題を約70%、発展的・応用的問題を約30%出題します。

国語

大問は 4 題程度（①漢字、②短文を作る、③ことばの知識、④長文読解)。長文読解は説明的文章で、記述問題は A 方式よりも解答分量が多くなります。また、本文の内容を踏まえて、自分自身の考えや意見を記述する問題を出題します。

【英語 1 科】

英検®4 級レベルを中心とし、10 分程度のリスニングテストを含みます（TOEFL Primary® スコア 212 点レベル）。

【英語表現】

「英語面接」は個別に行い、英検®3～4 級レベルの会話力を必要とします。「身体表現」はグループで行い、与えられた英単語や英文に、ジェスチャーやダンスを交えて、自由に表現します。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。
※TOEFL Primary®は ETS の登録商標です。

清泉女学院中学校

算数

1 期・2 期・3 期ともに、四則計算・速さ・割合・面積・体積・単位換算などの基本的な計算問題と文章題を出題します。すべて解答のみを記入する形式です。出題傾向はこれまでと同じです。

国語

1 期・2 期・3 期すべてにおいて、説明的文章と文学的文章を提示し、そこに設けられている設問に答えさせるという形式は共通しています。記述問題も出題します。出題傾向はこれまでと同じです。

理科

1 期・3 期ともに、実験・観察をもとに考える問題が中心で、計算問題・記述問題もあります。1 期は生物・化学・物理・地学の 4 題です。3 期は生物・化学・物理の 3 題ですが、地学の内容をどこかに含むこともあります。ふだんから身の回りの自然現象に興味・関心を持ち、なぜそういえるのかを考える習慣をつけておくとよいでしょう。

社会

1 期・3 期ともに、地理・歴史・公民の 3 分野からおおむね 2：2：1 の割合で出題します。基本的な知識を問う問題だけでなく、グラフや地図を読み取る力、考える力を問う問題もあります。教科書の基本的な事柄を学習するとともに、地図帳を開く習慣をつけましょう。また、本・新聞・ニュースなどを通して、社会で起こっていることに目を向けましょう。

洗足学園中学校

算数

これまでとほぼ同様の方針です。基本的な知識や処理能力に加え、具体例から規則を見つける力、立体図形を適切に考察する力などの思考力・応用力を見るため、さまざまな分野から出題します。考え方を記述する問題では、部分点を与えます。配点は問題によって異なります。計算に時間を取られないよう、速く正確に解く練習も必要です。

国語

説明文 1 題と物語文 1 題で、大問 1 題中の小問数は 8 問前後です。問題量が少なめなので、じっくり取り組んでください。大問ごとに 3 問程度の記述問題があります。記述の分量は行数で指定します。1 行に 25 字程度書くことを想定していますが、多少の増減は構いません。解答文は完結させてください。内容により、部分点も与えています。

理科

大問は、例年どおりに物理・化学・生物・地学の 4 分野より 1 題ずつ出します。各分野の出題割合（配点）はほぼ同じで、75 点満点中それぞれ 18 点前後です。小問の配点は難度により異なり、各 1〜4 点です。どの回も記述問題を 2 問ずつ出題します。漢字指定の問いもあるので注意してください。

社会

これまで同様、地理・歴史・公民の 3 分野より大問 1 題ずつの出題です。配点は 3 分野ほぼ均等で、各大問は 10 問程度の小問で構成されています。地名・人名・法律名などの社会科用語は漢字で正確に書けるようにしておいてください。文章で答える記述問題は部分点も与えています。どの分野も基本事項をまんべんなく理解していれば、十分に解けると思います。

捜真女学校中学部

算数

基本的な計算や単位換算、標準的な文章題や図形に関する問題の出題は例年どおりです。〇〇算等の知識の有無にかかわらず、その場で考えて解ける問題も出題しています。説明文を読み進めて解くような問題も出題していますので、少し長めの文章を読み、状況を整理する習慣も付けておきましょう。

国語

説明的文章・随筆・小説などの読解が中心です。自分のことばで説明する問題や、少し長い記述を求める問題もあります。さらに、言語知識・常識・教養を問う問題や、新聞記事を扱った問題も出題しています。日ごろから問題をたくさん解いて、問いに合った答え方も身につけましょう。

理科

物理・化学・地学・生物の４分野から幅広く出題します。計算問題、グラフを扱う問題のほか、教科書にある実験・観察に関する問題にも慣れておきましょう。初めて見る内容の問題もありますが、問題文を正確に読めば答えられますので、注意深く読む練習をしましょう。

社会

これまでと同じように小学校の教科書、受験用の参考書などに出てくる基本的な問題を出題します。歴史では時代の特色・人名・出来事などをつかみ、地理では日本地図を使って、47 都道府県の特色・位置・産物・県庁所在地などをしっかり確認しておきましょう。また地図記号をおさえておきましょう。さらに、政治・経済的分野を中心に、資料を読む力・思考力・表現力を見ていきたいと思っています。これについては、柔らかい発想で、かつていねいに解答してほしいと願っています。

日本女子大学附属中学校

算数

基本的な問題を中心にさまざまな分野から出題します。計算問題、小問は速く正確に解き、後半に時間をかけられるように練習しましょう。後半の応用問題では、問題文をしっかり読み、整理していくことが重要です。グラフや図と問題文の状況を対応させて考えましょう。どのような問題もパターンとして認識せず、一つひとつよく考えて解くことが大事です。算数 1 教科入試や今回から始まる算数・国語 2 教科入試でも出題傾向は変わらないので、過去の問題を参考に、同じように準備してもらえればと思います。

国語

さまざまな種類の文章を読み慣れておいてください。長い問題文は、内容を把握しながらある程度のスピードで読む力が必要です。自分のことばで書くことを求める問題を毎年必ず出題しています。自分の表現で文章が書けるよう練習をしておきましょう。小さい問題をヒントにしながら、文章全体から総合的に考える習慣をつけるとよいでしょう。
2027 年度より、2 教科入試（国語・算数）を実施します。この入試では基本的な読解問題と 400 字の作文を出題します。学校の HP に「サンプル問題」が載っていますのでぜひご覧ください。

理科

例年どおり、すべての分野から出題します。実験や観察に基づいて考える問題や、図・表やグラフなど、与えられたデータをもとに考える問題が中心です。問題を解くには基本的な知識や計算力が必要となりますので、教科書を中心にしっかりと身につけておきましょう。そのうえで、学校での実験・観察には積極的に参加し、経験を多く積んでおきましょう。

社会

例年どおり、すべての分野から出題します。都道府県名、歴史上の出来事や人名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう。そのうえで、それぞれの時代や地域のイメージを持ち、一問一答式の覚え方をするのではなく、さまざまな事柄を関連づけて理解しましょう。教科書の図表や統計などの資料も、そこから何が読み取れるのかを再確認してください。また、世の中で起きた重要な出来事にも関心を持ちましょう。

聖園女学院中学校

算数

小数・分数の四則演算を含む計算問題と、単位・速さ・比などに関する穴埋め問題を出題します。また、文章題・平面図形・立体図形・数学的な考え方を問う問題など、幅広い分野から出題します。文章題と立体図形では、式や考え方を記述する問題もあります。

国語

日本語の基礎学力を問う問題、そして日本語の文章を正しく理解し、運用・表現できる能力を問う問題を中心に出題します。漢字の読み書きと文章読解で構成されています。
記述問題では、解答内容に応じて段階点をつけています。文末処理や誤字による減点があります。解答用紙の文字は濃く大きくはっきりと、「相手（採点者）に伝わるように書く」という意識を大切にしてください。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野すべてから 10 点分ずつ出題し、ほかに時事などの総合問題の 10 点分を加え、計 50 点となっています。基本的なことを問う設問のほか、実験を題材に考察したり、計算をしたりする設問もあります。小学校の教科書に記載されている知識を基礎にして、提示されたデータや資料を読み取り、「考えて解く」という設問もあります。

社会

基礎的学力を問う問題を、地理・歴史・公民の各分野で 10 点ずつ、発展的学力を問う問題を地理・歴史分野の選択・記述形式で 10 点ずつ出題しています。「2 点問題×15 問」＋「10 点問題×2 題」で 50 点満点です。学校説明会などで配布した「入試に必ず出題されます」の地図からも出題します。いずれの分野も教科書を中心に学習を進め、過去問をぜひ解いてみましょう。

特待適性検査型入試

Ⓐ横浜市立型
横浜市立高等学校附属中学校の検査問題Ⅰ（文系・作文）をモデルにした試験です。大問 1 では会話文を含む複数の資料をもとにした、資料読み取り型の問題を出題します。選択肢から答えを選ぶ問題が中心で、設問は 4～6 問程度です。大問 2 では複数の文章を読み、その内容を踏まえて答える問題や、条件に従って指定された字数（160 字～200 字以内）で作文する問題を出題します。設問は 2～3 問程度です。

Ⓑ県立型
神奈川県立中等教育学校の検査問題をモデルにした試験です。全体的に、会話文を含む複数の資料をもとにした、資料読み取り型の問題です。選択肢から答えを選ぶ問題が中心ですが、記述する問題（数学・単語・短文など）も出題します。神奈川県立中等教育学校の検査Ⅰ・検査Ⅱの特徴を1本にまとめて出題します。大問は3題、それぞれの設問は3～5問程度です。解答用紙はマークシート（両面）です。

英語チャレンジ入試
英語によるグループ活動やネイティブ教員とのコミュニケーションを通して、表現力や主体的に活動に取り組む姿勢、そして英語への意欲を評価します。
本校の校内留学「Misono English Academy」の活動を試験内容に反映させています。
①Self Introduction（自己紹介）…1人約30秒
②Skit（パートナーとシチュエーションを演じ、ミッションをクリアしよう）…5～7分程度
③Conversation（Topicが載ったメニューを見て、受験生同士で会話をします）…3～5分程度
観点別評価により判定を行います。言語的な表現力に加え、非言語的な表現力と、主体性・積極性も判定材料となります。
◇言語的な表現力
　与えられた時間を目一杯使って、英語で豊かに表現できるかどうか
◇非言語的な表現力と主体性・積極性
　活動の相手を意識し、課題に取り組もうとする気持ちを積極的に表現しているか
【対策・アドバイス】
・自分のことを30秒くらいの英語で紹介できるよう準備してください。
・小学校の英語の教科書が読めるように練習してください。
・試験当日は英語で積極的に活動に取り組みましょう。
・在校生を受験生に見立てた「英語チャレンジ入試」のイメージ動画をご覧ください。

横浜女学院中学校

算数

計算問題が 4 問、基本問題が 6 問、資料問題が 1 問、応用問題が大問として 3 題です。計算問題は整数・小数・分数の四則計算です。解き始めの計算問題は正しい順序で計算できるか、分数や小数の計算をきちんと行えるかを見る標準的なものです。基本問題（小問）はいろいろな分野の基本を問うものです。割合・比・いろいろな特殊算・数の性質・場合の数・平面図形・空間図形から出題する予定です。資料問題は、グラフや表などの資料を分析し、計算式を導き出していくものです。応用問題は、大問 3 題にそれぞれ小問 3 問ずつの計 9 問です。出題分野は、整数に関する問題、場合の数に関する問題、平面図形に関する問題を予定しています。小問の 1 問目は基本問題で、2 問目は問題文をよく読み、きちんと考えれば正解にたどり着けるような問題ですが、3 問目は論理的な思考力が必要になってくる場合もあります。全体的に考えやすい問題にしています。資料問題と応用問題（大問）は記述式で、式はもちろん、図や文章などさまざまなものに部分点をつけています。あきらめずに正答を導く努力を解答用紙に表してください。そのため、解答用紙も A3 判の大きさにしています。

国語

「漢字・語句」「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」の 3 分野から出題します。「漢字」は 200 字程度の文章の中で、「読み・書きの問題」4 問、「誤字訂正問題」1 問を出します。「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」では、3000 字程度の文章を正確に読んで、内容がつかめるかを問う問題が大半となります。本文において中心となっている事柄を押さえながら読んでいけるようにしてください。また、本文から読み取った事柄を自分のことばにして、40～60 字程度で解答する問題も出題します。100 字以内の記述では、思考力と作文力を問います。本文に書かれている事柄を正確に読み取るだけでなく、自分の問題として主体的に考え、それをことばにすることを問います。

理科

試験時間は 30 分、配点は 60 点です。出題分野は、生物・地学・化学・物理の 4 分野から大問 4 題です。形式は、知識問題、会話文を読んで解答する問題、表やグラフを見て解答する問題、計算問題、実験に関する問題などとなります。「記述問題」も出題します。基礎的な知識を組み合わせる、資料から読み取るなど、柔軟に考えれば、正解を導けるものです。

社会

試験時間は 30 分、配点は 60 点です。表や写真などを見て解答する問題や、時事問題などを出題する予定です。地理的分野・歴史的分野・公民的分野すべてから出題します。「漢字指定」の問題では、ひらがなでの解答や漢字の間違いは不正解になります。「論述問題」も

1 問あります。基礎的な知識を組み合わせたり、資料から読み取ったりして柔軟に考えれば、正解を導ける問題を出題します。

横浜雙葉中学校

算数

1 行問題を数問と、大問を数題出題します。計算問題や面積・体積の測定、割合と比、関数とグラフ、図形の性質など、特定の分野にこだわらずに、問題レベルも基本から応用まで幅広く出題します。これにより、基本事項の定着度、思考力や応用力、論理性を測ります。一部の問題では、途中の式や考え方を答案に書いてもらいます。問題によっては部分点を与えることもあります。

国語

漢字の読み書き、ことわざ・慣用句・敬語、そのほかのことばの問題と、読解問題 2 題を出題します。ことばの問題では、漢字の読み書きをはじめとして、その場の文脈に合った用法・使い分けの整理が必要です。文章読解では、基本的語彙の理解や、文脈的理解に立脚した正確な読解を求めます。さらに、それを自分のことばで表現できる力を身につけましょう。なお、記述問題においては、部分点を考慮しています。

理科

「基礎的な知識力・理解力などとともに、観察・実験の過程における科学的な思考力」「学習内容を日常生活と関連づけて理解する力」を見る問題を出題するように心がけています。物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題し、総合的な力も求めます。解答の形式は、記号や用語だけでなく、図を描く、記述するなど、多様になるよう工夫します。その場合、部分点を考慮します。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野からほぼ均等に出題します。地理は日本のさまざまな地域の自然環境・産業・貿易などについて、歴史は日本の歴史上の事件・人物・政治・社会の様子・文化・外交など全般から、公民は政治の仕組み・日本国憲法・身近な現代社会の事柄などについて出題します。分野を問わず、自分の意見や考えを答える問題が出題されることもあります。漢字で書くように指定されている用語は、漢字で答えるようにしてください。理由や背景を説明する問題では部分点を考慮しています。